

## 「ちょこっとコメントー県教委 8月定例会議を傍聴して」

- ・今回の審議議案は4件。そのうち公開議案は2件でした。（非公開議案は、「県教委の点検・評価」と「社会教育功労者表彰」の2件）
- ・群馬県では2度目となる緊急事態宣言の発令初日ですが、8月17日の知事会見でのコロナ対策以外に教育委員会としての具体的提案はありませんでした。
- ・今回の会議では、「コロナ対策の知見の重要性」が数度話題に出ました。そもそも、昨年来の「知見」が今まで現場でなぜ共有されてこなかったかを、県教委はしっかり分析・検証する必要があるようです。
- ・高校再編に関する動きについて、「もっと議論を」との声が委員の一人からありましたが、統合・整理から発生する課題の本質が「全県一学区制の持つ矛盾」であることに触れていません。議論の不備と未熟さを感じます。
- ・公開議案の一つ目は、「教育委員会の会議規則の変更」であり、委員が希望すれば「オンライン参加」を可能とするものでした。ただ、オンラインでは採決の投票を認めていないことが気になります。また、傍聴に関する変更は特にないので「オンライン傍聴」は不可ということでしょうか。（正確な会議録が会議後数ヶ月たってもアップされていない現状を考えると、「知る権利」の行使上「オンライン傍聴」を求めることはあながち無理な注文でもないはずです）
- ・公開議案の二つ目は、私たちが原案に対してパブコメを出した「高校入試の改善方針」です。今回の内容を一見すると、私たちが批判した「人材」や「始動人型」という珍妙な語は、きれいに姿を消しています。それに代わって、「多様な観点からの評価」の必要性を前面に出した体裁がとられています。また、「2つの観点（型）での選抜」を「2段階での選抜」と改め、段階的な合否判定の手順をイメージさせる説明になっています。私たちの指摘を受けてか、今回「学力検査の内容」の項が新たに加わりましたが、「思考力、判断力、表現力をより適切に評価できるよう、検査問題の改善を図る」との説明では、評価する側の都合が透けて見えるばかりで、どう対処したらよいかと受験生の不安はかえって増すことでしょう。何より、文科省が唱える「学力の三要素」の一角を成すこの「思考力、判断力、表現力」が容易に数値化できるものでないことは、教育界どころか世間一般の常識であり、ましてや、一回のペーパーテストで評価することなど不可能です。公平で公正な入試を目指すなら、採点ミス防止策を含めた検査問題の抜本的改善がどうしても必要です。

（以上）